

田村 均教授 略歴・業績

〈略 歴〉

1952年11月20日 名古屋市生まれ

学 歴

1971年 3月 愛知県立明和高等学校卒業
1976年 3月 京都大学文学部卒業（哲学専攻）
1980年 3月 京都大学大学院文学研究科修士課程修了（哲学専攻）
1983年 3月 京都大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学（哲学専攻）

職 歴

1976年 4月 大阪府立城山高等学校教諭（社会科）（1977年 3月退職）
1984年 4月 学校法人河合塾大阪校講師（現代国語）（1986年 3月まで）
1986年 4月 香川大学教育学部助手
1987年 4月 香川大学教育学部講師
1988年 4月 香川大学教育学部助教授
1989年 4月 名古屋大学文学部助教授
1997年 4月 名古屋大学文学部教授（現在に至る）

学 位

1980年 3月 文学修士（京都大学）

共同研究員・非常勤講師

ピッツバーグ大学科学哲学センター客員研究員、プリンストン大学哲学科客員研究員
南山大学、愛知県立大学、東京都立大学、千葉大学、神戸大学、大阪大学、京都大学

所属学会

日本哲学会、日本科学哲学会、科学基礎論学会、日本イギリス哲学会、関西哲学会、中部哲学
会、名古屋大学哲学会、Hume Society

〈業 績〉

編 著

- 『科学を考える』 北大路書房 1999年 395頁+vi頁 (岡田猛、戸田山和久、三輪和久と共編。「哲学者は科学を考えているか」338-365頁執筆)

訳 書

- ケンダル・ウォルトン『フィクションとは何か ごっこ遊びと芸術』 名古屋大学出版会 2016年 443頁+x頁

共著書

- 『自然観の展開と形而上学』 紀伊國屋書店 1988年 井上庄七、小林道夫編 (「ジョン・ロックと微粒子説」191-223頁担当)
- 『知識という環境』 名古屋大学出版会 1996年 森際康友編 (「経験的知識の成立——所与・効用・社会」147-171頁、「批判への応答——誰も経験とは何かを知らない」179-181頁担当)
- 『分析哲学の現在』 世界思想社 1997年 藤本隆志、伊藤邦武編 (「感覚する個人——センス・データ論批判と自然主義——」59-92頁担当)
- 『デカルト読本』 法政大学出版局 1998年 野田又夫監修、湯川佳一郎、小林道夫編 (「デカルトとイギリス経験論」192-201頁担当)

論 文

- 現象主義の検討 『哲学論叢』1982年 第9号 73-84頁 哲学論叢刊行会 <http://hdl.handle.net/2433/24461>
- ヒュームの因果説 『関西哲学会紀要』1983年 第十八冊 34-39頁 関西哲学会
- 『形相と性質の起源』におけるロバート・ボイルの物質観 『香川大学教育学部研究報告』1987年 第I部 第70号 13-34頁
- 因果的関係の実在性について 『中部哲学会紀要』1989年 第22号 49-61頁 中部哲学会
- 確率論的因果説に関する覚書 『名古屋大学文学部研究論集 哲学』1990年 第36号 49-71頁 <http://hdl.handle.net/2237/7450>
- 「観念」という装置——ジョン・ロックとステイリングフリートの論争から—— 『理想』1992年 第648号 65-75頁 理想社
- 所与を越える道——ジョン・ロックとベーコン主義—— 『名古屋大学文学部研究論集 哲学』1994年 第40号 65-85頁 <http://hdl.handle.net/2237/7451>
- 感覚と知識——ジョン・ロックとトーマス・シドナム—— 『名古屋大学文学部研究論集 哲学』1995年 第41号 105-131頁 <http://hdl.handle.net/2237/5581>
- ジョン・ロックの自然科学の哲学 『哲學』1996年 第47号 207-216頁 日本哲学会 <http://doi.org/10.11439/philosophy1952.1996.207>
- 人格の同一性について——人類学的視点と哲学的視点—— 『名古屋大学文学部研究論集 哲学』1996年 第42号 89-115頁 <http://hdl.handle.net/2237/5590>

- 11 自己犠牲の倫理的な分析 『名古屋大学文学部研究論集 哲学』1997年 第43号 37-64頁
<http://hdl.handle.net/2237/5599>
- 12 哲学的認識論はいつから科学オンチになったのか? 『科学哲学』1997年 第30号
29-42頁 日本科学哲学会 <http://doi.org/10.4216/jpssj.30.29>
- 13 自己犠牲をめぐる三つの物語——エウリピデス、ティム・オブライエン、宮沢賢治——
『名古屋大学文学部研究論集 哲学』1999年 第45号 37-72頁 <http://hdl.handle.net/2237/5610>
- 14 私は考える、ゆえに、何があるのか?——コギトの自然化と社会化の試み—— 『名古屋
大学文学部研究論集 哲学』2000年 第46号 35-80頁 <http://hdl.handle.net/2237/5619>
- 15 ルース・ベネディクトの哲学的立場——文化相対主義と西洋近代思想—— 『名古屋大学
文学部研究論集 哲学』2003年 第49号 25-59頁 <http://hdl.handle.net/2237/7452>
- 16 私は考えるとは、何をすることなのか?——心の理論に関する発達心理学の最近の研究か
ら—— 『名古屋大学文学部研究論集 哲学』2004年 第50号 41-91頁 <http://hdl.handle.net/2237/7453>
- 17 The Modern Concept of Man and Hume on Personal Identity *Journal of the School of Letters*
2005 Volume 1 pp. 19-29 <http://hdl.handle.net/2237/9073>
- 18 功利主義者が自己犠牲をするとき——マーク・カール・オーヴァヴォルドの3論文の分
析と評価—— 『名古屋大学文学部研究論集 哲学』2005年 第51号 23-58号 <http://hdl.handle.net/2237/7454>
- 19 「考える私」以前——デカルト的自我と幼児の自己認識—— 『名古屋大学文学部研究論
集 哲学』2006年 第52号 27-73頁 <http://hdl.handle.net/2237/8400>
- 20 ドナルド・デイヴィッドソンにおけるキリスト教的フォーク・サイコロジ— 『名古屋大学
文学部研究論集 哲学』2007年 第53号 29-67頁 <http://hdl.handle.net/2237/8414>
- 21 服従と犠牲——柏端達也『自己欺瞞と自己犠牲』をめぐる—— 『名古屋大学文学部研
究論集 哲学』2008年 第54号 43-78頁 <http://hdl.handle.net/2237/10567>
- 22 フリ・まね・演技の行為論的分析——ゴッコ遊びの認知と行動—— 『名古屋大学文学部
研究論集 哲学』2009年 第55号 1-30頁 <http://hdl.handle.net/2237/12952>
- 23 思想史的概念に関する実験哲学的調査の報告——「近代」、「個人主義」、「意志」——
『名古屋大学文学部研究論集 哲学』2010年 第56号 1-24頁 <http://hdl.handle.net/2237/13408>
- 24 自己犠牲的行為の説明——行為の演技論的分析への序論—— 『哲学』2010年 第61号
261-276頁 日本哲学会 <http://hdl.handle.net/2237/13927>
- 25 “Will” and “Ishi”: Explanation of Action in Cross-Cultural Perspective *Journal of the School of*
Letters 2011 Volume 7 pp. 1-13 <http://hdl.handle.net/2237/14562>
- 26 虚構の語りと言語行為論 『名古屋大学文学部研究論集 哲学』2012年 第58号 1-29頁
<http://hdl.handle.net/2237/16777>
- 27 なぜシャーマンと絵とダンスが哲学の問題になるのか? 『哲学フォーラム』2013年 第
10号 1-8頁 名古屋大学文学部哲学研究室 <http://hdl.handle.net/2237/18352>
- 28 虚構世界における感情と行為: ケンダル・ウォルトンの虚構と感情の理論 『名古屋大学
哲学論集』2013年 第11号 1-34頁 <http://hdl.handle.net/2237/18351>

- 29 虚構制作の根源性——ケンダル・ウォルトンの虚構論——『名古屋大学文学部研究論集 哲学』2013年 第59号 1-34頁 <http://hdl.handle.net/2237/17716>
- 30 権力の下での行為——日本人戦犯の心理と行為の演技論的考察——『名古屋大学文学部研究論集 哲学』2014年 第60号 1-56頁 <http://hdl.handle.net/2237/19777>
- 31 善と個人——個人における共同的な善への服従について——『名古屋大学文学部研究論集 哲学』2015年 第61号 15-43頁 <http://hdl.handle.net/2237/21540>
- 32 懐疑家フィロはなぜ宇宙的知性を認めたのか——ヒューム哲学とキリスト教の関係について——『名古屋大学文学部研究論集 哲学』2017年 第63号 19-60頁 <http://hdl.handle.net/2237/25883>
- 33 事物と私たちの想像論的なかかわりについて——ケンダル・ウォルトンの「想像活動のオブジェクト」の概念をめぐって——『名古屋大学哲学論集』2017年 第13号 1-21頁 <http://hdl.handle.net/2237/25877>

書評、評論、事典項目、その他

- 1 書評：神野慧一郎著『ヒューム研究』『哲学研究』1985年 第47巻 第9冊 135-142頁 京都哲学会
- 2 評論：予備校と大学『香川大学一般教育研究』1986年 第30号 185-190頁 <http://shark.lib.kagawa-u.ac.jp/kuir/detail/352120120327035236>
- 3 書評：ヒュームとその時代——坂本達哉『ヒュームの文明社会』に寄せて——『創文』1996年 377号 10-13頁
- 4 コラム：「宇宙と世界」、「偶然と必然」、「自然法則」伊藤邦武編『岩波新・哲学講義 5 コスモロジーの闘争』1997年 176-177頁、184-185頁、186-187頁
- 5 書評：小林道夫著『デカルトの自然哲学』『科学哲学』1997年 第30号 日本科学哲学会 142-144頁 日本科学哲学会 <http://hdl.handle.net/2237/7709>
- 6 書評：一ノ瀬正樹『人格知識論の生成——ジョン・ロックの瞬間』『科学哲学』1998年 第31.2号 日本科学哲学会 121-124頁 <http://hdl.handle.net/2237/7710>
- 7 事典項目：「因果性」、「不可侵入性」、「粒子哲学」廣松渉ほか編『岩波哲学・思想事典』1998年 岩波書店
- 8 公開講座教材：変わるか？——戦争と暴力への視点——『平成12年度名古屋大学公開講座 かわる・かえる：20世紀を振り返り、21世紀を展望する』2000年 53-66頁 <http://hdl.handle.net/2237/16598>
- 9 学会資料：ドナルド・デイヴィドソンにおけるキリスト教的フォーク・サイコロジー再考 京都科学哲学コロキウム2008年11月23日 <http://hdl.handle.net/2237/10780>
- 10 学会資料：自己犠牲的行為は私たちに何を告げているか？ 第68回日本哲学会大会2009年5月16日 <http://hdl.handle.net/2237/19075>
- 11 学会資料：暴力の是認と道徳の起源 第2回応用哲学会大会2010年4月25日 <http://hdl.handle.net/2237/13929>
- 12 書評：中才敏郎『ヒュームの人と思想——哲学と宗教の間で』『イギリス哲学研究』2017年 第40号 日本イギリス哲学会 80-81頁



田 村 均 教 授